

## 元気な大川を取り戻したい

お仏壇のよしまる

代表取締役社長 島本 由希子 さん

今回の夢追い人は、お仏壇のよしまるの島本さんにお話を伺いました。

### 専門店だからこそ

お仏壇のよしまるは創業明治二十六年、今年で一七七年目となります。

「曾祖父、祖父、会長であった父、そして私で四代目です」  
店舗は大川市、八女市、佐賀県武雄市の三店舗。一番多い時は、三十三店舗展開されていたそうです。

「いまでも大川市以外から、例えば福岡県内や佐賀県、北部九州からお越しになります。ずっと仏壇に関わる事業を行ってきたので、お仏壇といえはよしまると思っ頂いているとも思います」

大川では昔ながらの仏壇を見かけることが多いそうですが、近頃は仏壇も様変わりしているとのこと。

「最近では家具のような、ライ

フスタイルに馴染む仏壇も増えてきました。都会に行けば行くほどスタイリッシュだったり、それぞれの生活に馴染む形の仏壇が多くなりますね。カラーバリエーションも豊富になりましたし、フロリングに置ける仏壇や仏壇の下に椅子などを収納できるものもあります。最近だと仏壇の収納に納骨される方もいらつしゃいますね。仏壇ですと言われないとわからないものから昔ながらの仏壇まで、いまは様々なものがあります」

また、大川木工まつりには初期から出展されているそうです。

「仏壇店は、なかなか入りづらいと思います。おまつり会場でなら、なんの抵抗も感じずに入っていました。スーパリーなどでは見かけない、専門店でも買わないといけなものを手にとられる方は多いですね。いまは何でもネット

で買える時代ですが、お線香などの香りは実物じゃないとわかりません。仏壇に關してもネットでの販売も始まりましたが、寸法が書かれていても実際に見ないとサイズ感はわからないですからね。小さいサイズで、この幅に置くということが決まっていればネットでもいいかなと思いましたが、やっぱり大きな仏壇は見ていただきたいですね」

よしまるには、仏壇を引き継いだけどもわからないという方も来られるそうです。「仏壇があるご家庭では自然と身につくものかもしれませんが、ないご家庭では全てが初めてのことです。引き継がれた時は、それまでご家庭でなされていたようにするのが一番です」と伝えていきます。

それでも初めての方は、もうファイティングポーズの状態でご構えられますね。毎朝ご飯を炊いて供えなきゃとか





お仏壇のよしまる店内

色々身構えられてますが、絶対にそうしなきゃというわけではないので気負わないでくださいとお話しています。ただ、私個人としては、ご飯を炊かれたときの美味しいご飯をお供えしてあげたら良いと

思ってます」

仏壇に関する相談をするのも女性の方が安心されるかなと思っていると話された島本さん。

「男性には相談しづらい部分もあるでしょうし、実際のご家庭だと女性がお世話をされる比率は高くなると思います。色々説明した後にはわからないことありますか？と言われても、その時はわかったと思ってるし、わからないこともわからないでしょうから、そういう時は電話してくださいねとも伝えてありますね。どちらかという仏壇関係はお年寄りの仕事と思われている方も多いようですが、これからのためにも若い方がされるのも良いと思いますね」

### “女性”が必要とされる世の中

社長に就任されてからは、十一年目が過ぎようとしているとお話された島本さん。「最初は銀行に就職して、それからアパレル業を十年ほど続けたあと、お仏壇のよしまるを引き継ぎました。いま考えるに業種は様々で畑違いなことを経験していますね。いまちようど同世代の代表が増えてきて、世代交代をしているのかなと考えると、うちは他よりも世代交代が早かった

かなと思っています。何事もタイミングだとは思いますが、早かった分だけ比較的長く先代には仕事を教えてもらったと思っています。ちようど九年が過ぎた頃に亡くなってしまうと、正直まだ教えてもらえないという甘えはあったかもしれないですね」

先代から様々なことを学び経験を積まれた島本さん。大川商工会議所女性会にも立ち上げ当初から携わられているそうです。

「会議所の女性会の他にもインターネット振興センターの理事もさせて頂いています。多業種が集まる女性会とは違い、木工業が深く関わっている団体なので畑違いといえれば畑違いの場所ですが、異業種の枠でお声がかかりました」

それ以外にも女性を入れたという考えがあるのではとお話されました。

「業界の中心に女性も進出しよう！と声が出て、実際に出ていくまでには時間が掛かります。かといって誰かが取っ掛かりを作らなければ、誰も出て行かなくなってしまう。男性が多い会議などに『島本さんが行つてあるけん、私も行つてみようかな』と思つたら嬉しいですね。やつぱり男性が多い世界に女性が飛び込むつていうの

は不安が多いですから。父や祖父は私をいろんな団体へ連れて行ってくれたので、いま会長をされている方のことも若い頃から知っています。そういういったところへ連れて行ってくれたから、男性が主となつていく世界にもスムーズに入つて行けたのかもしれない。今度は他の女性が進出するきっかけに私がなりたいですね」

多種多様な団体などへ参加されている島本さん。

「色々な役を受けるのは簡単ですが、全てを受けてしまつてもキヤバオーバーになつて、全部が疎かになつてしまつては元も子もありません。先代のように引き受けた分、全てこなせるならばいいんですが、私にはまだ出来ない部分が多いです。もちろん本業もありますし、結婚して子供もいるので、仕事と家庭を両立させながら生活しています。いまの時代の女性はほとんどがそうだと思います。それにいまは働き方改革も始まり、より時間も制約されていますからね」

### 活気ある大川に

夢は大川が元気になること、とお話された島本さん。大川に関わる仕事や団体の役などを引き受けているのもそれが

理由のひとつのこと。

「もちろん本業があつてのお手伝いですが、本業が元気になるってほしいし、大川にも元気になるってほしいです。そして以前のような活気のある木工まつりのパレードなどをまた見たいですね。お店の前も交通規制がかつていた頃は、紙吹雪が舞つて、祖父は陣羽織で馬に跨つてパレードに参加して。あの頃のような元気を大川に取り戻してほしいですね。そしてそんな大川の姿を子どもたちにも見せたいです」

より良い未来のために、これまでを大切に作る手助けもしていきたいとお話されました。

「ありきたりかもしれませんが、みんなが良くならないと私たちの商売も良くならないですから。良くなつていくためにはご先祖様も大切にしてください。良くないといけないし、これまで大川を支えてこられた方も大切にしていきたいです。そういうったお手伝いができる仕事を続けていきたいですね。十年なんて社長の中ではまだ見習いで、これからも勉強しなくちゃいけないことがたくさんあります。まだまだ十年ちよつと、まだまだ一七年。もっと頑張らないといけないなと思つています」